

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2277102709		
法人名	有限会社ライフクリエーション		
事業所名	グランマ「ハノン」1F		
所在地	静岡県浜松市西区村楠町3962		
自己評価作成日	令和4年3月7日	評価結果市町村受理日	令和4年5月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigvoCd=2277102709-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigvoCd=2277102709-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	株式会社 静岡タイム・エージェント		
所在地	静岡県静岡市葵区神明町52-34 1階		
訪問調査日	令和 4年 3月21日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

グランマでは、理念の中にある“自然との共生”をしながら、人間らしく、心豊かに穏やかな生活が送ることができるよう職員一同サポートしています。環境面では、施設に広大な庭を有しており、利用者は毎日の散歩や庭いじりを通して、いつでも自然に触れることができ、季節を感じながら身体機能の維持・回復を図っています。また、日課として、歌・体操・脳トレなどを利用者のレベルに応じて行い、残存機能が維持できるようにしています。基本的に日常生活でご本人が出来そうな事は、職員が見極め、手伝いながらご自身で行ってもらっています。皆でコミュニケーションをとりあうことで社会性が生まれ、ご本人の自信にもつながっています。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

法人が経営する2つのグループホームが広い敷地に併設されており、法人役員・施設長と管理者は、常に連絡を取り合い、情報を共有しながら事業所運営に当たっている。事業所併設の利点を活かし、運営推進会議等の委員会や家族会の交流イベントの共同開催や、利用者同士の交流も図られている。これまで継続してきた年2回の「家族会」はコロナの影響で1回の開催となったが、感染防止対策を徹底しながら、家族の面会に柔軟に対応している。自然環境に恵まれた立地条件を活かして事業所前の薔薇園の散策・近隣の散歩など、出来る限り戸外での活動を支援している。明るく広いリビングにはソファを置いた談話スペースがあり、常に生花や絵画を飾り、日々季節を感じながらゆったりと情緒豊かに暮らすことができる。残存能力の維持を大切に考え、手作りの食事の手伝い、掃除・洗濯の手伝い、体操・脳トレなど、利用者の生活を見守る支援を心掛けている。感染防止対策として、常時換気・こまめな消毒に留意し、安全で清潔な環境作りを心掛けている。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目：9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目：11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目：28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員が常に見えるところに理念を掲示しており、常に意識して介護に取り組んでいる。	法人理念を掲示し、常に確認しながら理念に基づいた支援を心掛けている。職員全員が参加する月例会議では、管理者や職員が事業所の課題や改善点について話し合い、理念の周知や確認を行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍の為、慰問やボランティアの受け入れができていないが、散歩時や受診時などできる範囲で地域の方と交流をしている。	コロナ禍の折、地域行事への参加は厳しく制限しているが、事業所の立地環境を活かし、近隣への散歩や外気浴の際に交流を図っている。コロナ禍後を見据えて、隣接する同法人GHと共に、ボランティアや老人会「すずめの広場」との連絡を継続している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	見学や相談を受け付けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍の為、2か月に1回書面会議で開催している。グランマの取り組みや報告を行い、評価や意見等を参加者の方からいただき、日々の介護に活かしている。	コロナ禍により、2か月に1回書面開催で実施している。議事録を運営推進委員会委員に送り、委員からの意見を返信シートで収集して、必要な意見は月例会議にて情報を共有し、運営に反映している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議を通して相談やアドバイスをいただいたり、必要時は電話で連絡を取り、指導をいただいている。	運営推進会議議事録や関係資料を持参し、事業所の運営状況を説明するとともに、市からの意見や情報を得て、事業所の運営に反映している。病院からの帰宅者がコロナ感染時には、的確な連絡のもと、感染拡大を防ぐことができた。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修を行い理解を深めている。 玄関は早朝、夜間以外は開錠している。	身体拘束適正化委員会は、年6回、運営推進会議終了後に開催している。指針・マニュアルを整え、適正化委員会開催時にはテーマを決めて職員研修会も行い、身体拘束を行わないケアの実践に取り組んでいる。玄関は、防犯対策として夜間のみ施錠している。	

静岡県(グランマ「ハノン」)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修を開催し、理解を深めている。 運営推進会議と同日程で、身体拘束等適正化検討委員会を開催し、現状を報告することで、参加者の方々に意見をいただいている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会を開催している。必要のある方には成年後見制度の利用を支援し、職員には資料を配布し理解を深めてもらっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	施設長・管理者が保証人の方に説明し、納得、理解をしていただき、契約等を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会時には、必ず職員が日々の様子を伝え、意見や要望を直接聞いている。	これまで継続してきた「家族会」の年2回開催は、コロナ禍により1回の開催となったが、家族の面会については、感染防止対策を徹底しながら、自然に恵まれた施設の立地環境を活かして柔軟に対応している。管理者は、面会制限がある中、こまめな電話連絡にて家族との意見交換を図っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎朝、施設長を含めてのミーティングを行う為、職員の意見を聞き、すぐに反映している。	施設長・管理者は、毎朝行うミーティングにて職員との意見交換を心掛け、職員からの意見や悩みについて聞き取る工夫をしている。情報や課題は月例会議で取り上げ、職員間での意見交換と情報の共有を図っている。	職員との関係は良好であるが、人事課として具体的な評価を行うことは、職員のスキルアップに重要なことであるため、今後は職員自ら作成する「業務自己目標シート」をもとに、管理者の評価を可視化できる仕組み作りの検討を期待します。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の勤務状況や努力を把握し、職員のモチベーションを高めるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	出前講座を利用した内部研修、ZOOMを利用した外部研修を行い、職員のレベルアップを行っている。		

静岡県(グランマ「ハノン」)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者と交流する機会を作ったが、コロナ禍の為、頻繁にはできていない。電話で連絡を取り合っている。		
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人と話し、コミュニケーションを取りながら、どのようなことを希望されているかを聞き出し、信頼関係を築いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学時にご家族の悩みや相談を受けることが多く、ご本人に合った対応を提案させていただいている。入所前後は頻繁に家族と連絡を取り合っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族の意向を聞き、必要なサービスを提案している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の生活の中で、一緒に活動に取り組むことで信頼関係を築くことができている。会話をすること職員は意識している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や必要時に電話をし、報告をしている。本人の様子や思いを伝えた上で、家族の思いも聞き、職員・家族と本人を支えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会や、手紙、電話でのやり取り、書道の展示会への外出等の支援を行っている。	コロナ禍の環境では難しい状況ではあるが、できる限り、これまで継続してきた家族や友人への手紙や電話連絡を支援している。近隣住民との散歩時の挨拶、馴染みの美容院の予約、書道展への外出など、関係継続の支援に取り組んでいる。	

静岡県(グランマ「ハノン」)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず に利用者同士が関わり合い、支え合えるような 支援に努めている	利用者同士の関係性を把握し、お互いが気 持ちよく過ごすことができるように支援を 行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関 係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族 の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所をされてからも、家族から連絡をいた だいたり、相談を受けたりすることがある。 職員に会いに来てくださる家族もいる。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握 に努めている。困難な場合は、本人本位に検討し ている	本人と日々コミュニケーションを取り、希望 や意向を把握している。気づきがある場合 は、記録に残し、職員間で共有している。	管理者は、入居時に利用者・家族の要望を 「利用者基本台帳(基本情報)」に整理して、職 員と情報を共有している。職員は、日々の気 付きを「伝達事項」欄に記録して確認なが ら、都度意向に沿った支援を心掛け、ケアプ ランに反映させている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環 境、これまでのサービス利用の経過等の把握に 努めている	入所前に本人や家族に聞き取りを行う。そ の後、面会に来てくださった友人や親戚の 方などからも情報を収集している。入所以 前に関係のある事業所からも情報をいた だいている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する 力等の現状の把握に努めている	1人1人の状況は毎日記録に残し、職員間 でも共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方 について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、 それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即 した介護計画を作成している	本人・家族の意向や希望を聞きながら、職 員間でも話し合い、検討している。	利用者の情報は「日誌」とタブレットを活用した 「業務日報」を基に、月例会議にてカンファレ ンスを行い、職員で情報を共有している。3か 月に1回、モニタリングに反映しながら見直しを 行い、介護計画作成へと繋げている。	月例会議でのカンファレンスがより実 効を上げるため、介護計画更新対象 月の前月に、更新対象者のモニタリ ングの視点(ポイント)を具体的に提示 した資料を整え、職員からの意見が出 しやすい仕組みについて、環境作り の検討を期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を 個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら 実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や変化等は毎日の個人の記録 に記載している。ケアの変更は、毎朝のミー ティングで話し合い検討することがある。		

静岡県(グランマ「ハノン」)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の希望を優先し、可能な限り対応をしている。コロナ禍の為、外食ができていないが、施設内でデザートをみんなで作って食べるなど、違う形でニーズに答えられるようにしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自然に囲まれている環境の為、散歩に出て季節を肌で感じ、穏やかな生活を送ることができるよう支援を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族が希望する病院に受診をしている方が多い。常には職員が受診に同行するが、必要時は家族と一緒に医師の話を聞いていただく。	近隣にある協力医へ毎月1回、職員が付き添い通院し、受診情報は家族・管理者・職員で共有している。歯科医は2か月に1回の往診がある。看護師は週1回訪問して利用者の健康管理をしているが、近隣に居住するため24時間対応で連絡を取ることができる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の様子は看護師に報告し、相談・指示を受けられようとしている。看護師不在時は、電話連絡をし、指示をもらうことになっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には、職員が付き添い、病院に施設での様子を伝えている。情報提供という形で入居者情報の書面を病院に提出している。退院に向けての相談などの連絡も常に行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人・家族の意向を聞き、主治医とも相談している。	入居時に「重度化や終末期に関する方針」や事業所の対応を利用者・家族に丁寧に説明し、家族の希望を確認している。緊急時や重度化した際は、再度家族の意向を確認し、医療関係者と連携しながら、柔軟に対応する体制ができています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	焦らず、慌てず対応ができるように、日ごろから実践している。		

静岡県(グランマ「ハノン」)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協体制を築いている	地域の防災訓練への参加、施設内での訓練を行っている。階段の上り下りの訓練なども行っている。	災害別のマニュアルを整備し、年2回テーマを決めて災害対策訓練を実施している。訓練の課題について整理し、職員と情報共有しながら次回訓練に繋げている。備蓄品は、3日間を目途に水・食料をローリングストックで管理している。停電に備え、発電機の設置を検討している。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その人それぞれに合わせた声かけや対応をしている。	個人情報保護について、入居時に説明し、写真掲載等の同意を得ている。個人情報や人格の尊厳について職員に課題が散見された時は、管理者は都度注意するとともに、必要な情報は月例会議で取り上げ、改善点について話し合い、確認している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人と話し合い、希望や思いを聞きながら決定している。うまく表現できない方に対しては、いくつかの選択肢を用意し、選んでもらっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の希望を可能な限り取り入れている。対応できることは迅速に対応することで、本人の満足に繋げることができている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	行きつけ美容院への予約や送迎、化粧品や洋服の購入の支援を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の下ごしらえや味見、食器洗いを手伝っていただいている。メニューに苦手な物がある方は、他の物を提供している。	近隣住民から地元野菜を調達できる環境を活かし、利用者の好みを取り入れた献立を考えて、3食職員手作りの食事を提供している。利用者の能力に合わせて、下ごしらえや配膳・下膳を共に行い、ホットプレート調理など取り入れながら、食事を楽しむ工夫を心掛けている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分摂取量を個人の日報に記入し把握している。1口大にカットしたり、食べやすい形態で提供をしている。		

静岡県(グランマ「ハノン」)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声かけを行い口腔ケアを行っている。磨きの残しがある方には介助を行っている。訪問歯科の利用、緊急時は地域の歯科にかかっている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個人の排泄記録を記入し、パターンを把握し声かけ誘導を行っている。排便コントロールも行い、気持ちの良い排泄ができるよう支援を行っている。	タブレットの「排泄チェック表」に記録して排泄パターンを把握し、日々の体調の様子を見守りながら、早めの声掛けによりトイレへ誘導する先回りケアを心掛けている。夜間はポータブルトイレ利用者も、安全と安心を確保した支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への動きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便記録を記入し、個々の排便パターンを把握している。水分摂取、食べ物、運動を意識し、支援を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	安心・安全に入浴をする為に、基本的に入浴日、時間は決まっている。対応できる範囲での個人対応は行っている。	3回/週の午前浴を基本としているが、利用者の体調や希望を考慮しながら、その時の状態に合わせて職員が柔軟に対応し、シャワー浴や時間を変えて、気持ち良く入浴できるように取り組んでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	休息の時間は自由になっている。寝具は順番に毎日洗濯し、汚れた場合もすぐに洗濯をしている。個々にあった就寝時間で介助を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員間で共有している。受診の結果、薬の変更は必ず日報に記入し、フロアの全職員が把握できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者それぞれに合った役割や趣味事を支援している。		



静岡県(グランマ「ハノン」)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍の為、限られた中での対応になっているが、可能な限りの外出支援を行っている。	コロナ禍の折、大勢で遠方への外出はできないが、自然環境に恵まれた施設の立地条件を活かし、感染防止対策に注意を払いながら、通院の際の外出や、事業所の庭園や周辺の散歩を外気浴を目的とした日課とするなど、工夫した支援に取り組んでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望がある方は、現金を所持している。行きつけの美容院での支払いなどを行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話の操作を支援している。手紙を書くときには、必要なものを準備し、郵便局と一緒に手紙を出しに行くなど支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	常に清潔に保っている生花を飾ったり、明るさや室温に配慮し、心地の良い空間づくりに努めている。	明るい採光の共有空間は、季節の花を飾りソファを配置して、利用者が好みの場所で過ごすことができる。寝具干しやこまめな掃除とともに、感染防止対策に十分注意を払い、常時換気やテーブルや共用部分の消毒を徹底して行い、安全で清潔な環境作りを心掛けている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自室への行き来は自由に行うことができ、所々にソファを置き、ゆっくり過ごすことが出来る場所を作っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物を持ちこんでいただいたり、好きな物を置いている。写真や花など自由に飾っている。	居室は、馴染みの家具や好みの品を持ち込み、家具の配置を工夫して、過ごしやすい部屋作りを支援している。感染防止対策に注意を払い、室内の清掃とドアノブなどの定期的な消毒を行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している	シンプルでわかりやすい環境にしている。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2277102709		
法人名	有限会社ライフクリエーション		
事業所名	グランマ「ハノン」2F		
所在地	静岡県浜松市西区村櫛町3962		
自己評価作成日	令和4年 3月7日	評価結果市町村受理日	令和4年5月12日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

グランマでは、理念の中にある“自然との共生”をしながら、人間らしく、心豊かに穏やかな生活が送ることができるよう職員一同サポートしています。環境面では、施設に広大な庭を有しており、利用者は毎日の散歩や庭いじりを通して、いつでも自然に触れることができ、季節を感じながら身体機能の維持・回復を図っています。また、日課として、歌・体操・脳トレなどを利用者のレベルに応じて行い、残存機能が維持できるようにしています。基本的に日常生活でご本人が出来そうな事は、職員が見極め、手伝いながらご自身で行ってもらっています。皆でコミュニケーションをとりあうことで社会性が生まれ、ご本人の自信にもつながっています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou\\_detail\\_022\\_kani=true&JigyosyoCd=2277102709-00&ServiceCd=320&Type=search](https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2277102709-00&ServiceCd=320&Type=search)

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	株式会社 静岡タイム・エージェント		
所在地	静岡県静岡市葵区神明町52-34 1階		
訪問調査日	令和 4年 3月21日		

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員が常に見えるところに理念を掲示しており、常に意識して介護に取り組んでいる。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍の為、慰問やボランティアの受け入れができていないが、散歩時や受診時などできる範囲で地域の方と交流をしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	見学や相談を受け付けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍の為、2か月に1回書面会議で開催している。グランマの取り組みや報告を行い、評価や意見等を参加者の方からいただき、日々の介護に活かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議を通して相談やアドバイスをいただいたり、必要時は電話で連絡を取り、指導をしていただいている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修を行い理解を深めている。 玄関は早朝、夜間以外は開錠している。		

静岡県(グランマ「ハノン」)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修を開催し、理解を深めている。 運営推進会議と同日程で、身体拘束等適正化検討委員会を開催し、現状を報告することで、参加者の方々に意見をいただいている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会を開催している。必要のある方には成年後見制度の利用を支援し、職員には資料を配布し理解を深めてもらっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	施設長・管理者が保証人の方に説明し、納得、理解をしていただき、契約等を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会時には、必ず職員が日々の様子を伝え、意見や要望を直接聞いている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎朝、施設長を含めてのミーティングを行う為、職員の意見を聞き、すぐに反映している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の勤務状況や努力を把握し、職員のモチベーションを高めるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	出前講座を利用した内部研修、ZOOMを利用した外部研修を行い、職員のレベルアップを行っている。		

静岡県(グランマ「ハノン」)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者と交流する機会を作ったが、コロナ禍の為、頻繁にはできていない。電話で連絡を取り合っている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人と話し、コミュニケーションを取りながら、どのようなことを希望されているかを聞き出し、信頼関係を築いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学時にご家族の悩みや相談を受けることが多く、ご本人に合った対応を提案させていただいている。入所前後は頻繁に家族と連絡を取り合っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族の意向を聞き、必要なサービスを提案している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の生活の中で、一緒に活動に取り組むことで信頼関係を築くことができている。会話をするというのを職員は意識している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や必要時に電話をし、報告をしている。本人の様子や思いを伝えた上で、家族の思いも聞き、職員・家族と本人を支えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会や、手紙、電話でのやり取り、書道の展示会への外出等の支援を行っている。		

静岡県(グランマ「ハノン」)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性を把握し、お互いが気持ちよく過ごすことができるように支援を行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所をされてからも、家族から連絡をいただいたり、相談を受けたりすることがある。職員に会いに来てくださる家族もいる。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人と日々コミュニケーションを取り、希望や意向を把握している。気づきがある場合は、記録に残し、職員間で共有している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前に本人や家族に聞き取りを行う。その後、面会に来てくださった友人や親戚の方などからも情報を収集している。入所以前に関係のある事業所からも情報をいただいている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1人1人の状況は毎日記録に残し、職員間でも共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族の意向や希望を聞きながら、職員間でも話し合い、検討している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や変化等は毎日の個人の記録に記載している。ケアの変更は、毎朝のミーティングで話し合い検討することがある。		

静岡県(グランマ「ハノン」)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の希望を優先し、可能な限り対応をしている。コロナ禍の為、外食ができていないが、施設内でデザートをみんなで作って食べるなど、違う形でニーズに答えられるようにしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自然に囲まれている環境の為、散歩に出て季節を肌で感じ、穏やかな生活を送ることができるよう支援を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族が希望する病院に受診をしているが、グランマのかかりつけ医を受診されている方が多い。常には職員が受診に同行するが、必要時は家族と一緒に医師の話聞いていただく。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の様子は看護師に報告し、相談・指示を受けられようとしている。看護師不在時は、電話連絡をし、指示をもらうことになっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には、職員が付き添い、病院に施設での様子を伝えている。情報提供という形で入居者情報の書面を病院に提出している。退院に向けての相談などの連絡も常に行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人・家族の意向を聞き、主治医とも相談している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	焦らず、慌てず対応ができるように、日ごろから実践している。		

静岡県(グランマ「ハノン」)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の防災訓練への参加、施設内での訓練を行っている。階段の上り下りの訓練なども行っている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その人それぞれに合わせた声かけや対応をしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人と話し合い、希望や思いを聞きながら決定している。うまく表現できない方に対しては、いくつかの選択肢を用意し、選んでいただいている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の希望を可能な限り取り入れている。対応できることは迅速に対応することで、本人の満足に繋げることができている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	行きつけ美容院への予約や送迎、化粧品や洋服の購入の支援を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の下ごしらえや味見、食器洗いを手伝っていただいている。メニューに苦手な物がある方は、他の物を提供している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分摂取量を個人の日報に記入し把握している。1口大にカットしたり、食べやすい形態で提供をしている。		



静岡県(グランマ「ハノン」)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声かけを行い口腔ケアを行っている。磨きの残しがある方には介助を行っている。訪問歯科の利用、緊急時は地域の歯科にかかっている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個人の排泄記録を記入し、パターンを把握し声かけ誘導を行っている。排便コントロールも行い、気持ちの良い排泄ができるよう支援を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便記録を記入し、個々の排便パターンを把握している。水分摂取、食べ物、運動を意識し、支援を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	安心・安全に入浴をする為に、基本的に入浴日、時間は決まっている。対応できる範囲での個人対応は行っている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	休息の時間は自由になっている。寝具は順番に毎日洗濯し、汚れた場合もすぐに洗濯をしている。個々にあった就寝時間で介助を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員間で共有している。受診の結果、薬の変更は必ず日報に記入し、フロアの全職員が把握できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者それぞれに合った役割や趣味事を支援している。		

静岡県(グランマ「ハノン」)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍の為、限られた中での対応になっているが、可能な限りの外出支援を行っている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望がある方は、現金を所持している。行きつけの美容院での支払いなどを行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話の操作を支援している。手紙を書くときには、必要なものを準備し、郵便局と一緒に手紙を出しに行くなど支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	常に清潔に保っている生花を飾ったり、明るさや室温に配慮し、心地の良い空間づくりに努めている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自室への行き来は自由に行うことができ、所々にソファを置き、ゆっくり過ごすことが出来る場所を作っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物を持ちこんでいただいたり、好きな物を置いている。写真や花など自由に飾っている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している	シンプルでわかりやすい環境にしている。		